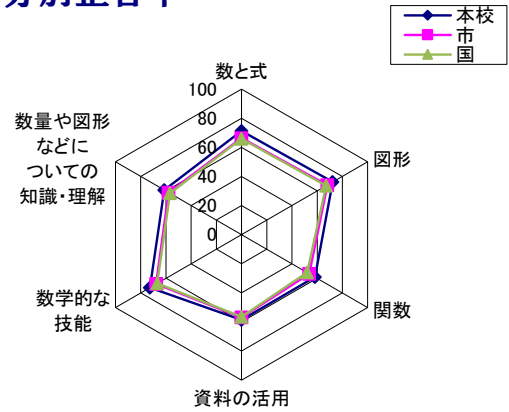


宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

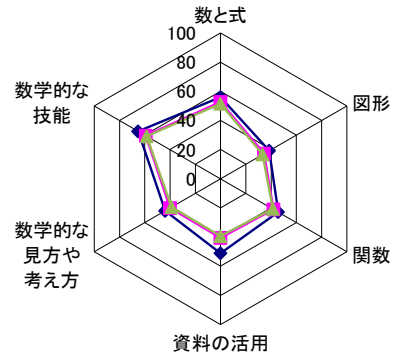
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	71.3	66.4	65.9
	図形	72.3	68.1	67.1
	関数	58.3	53.7	52.0
	資料の活用	58.6	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	72.7	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	61.4	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	56.0	52.7	51.5
	図形	38.5	34.5	33.3
	関数	45.7	41.9	41.4
	資料の活用	51.1	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	43.9	39.9	38.9
	数学的な技能	65.2	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学Aでは5.4ポイント、数学Bでは4.5ポイント全国平均を上回っている。特に、数学Aでの「具体的な場面における数量の関係」では19.5ポイント、数学Bでの「適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる」では7.6ポイント高い。 ●全国平均と比べると、数学Aでの「自然数の意味を理解している」で1.9ポイント低く、数学Bでは下回っているものはないが、「与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる」では2.3ポイント高いだけにとどまっている。	・「自然数の意味を理解している」では、知識の定着のため、ワークやプリントなどを利用してドリル学習を繰り返し学習させていきたい。 ・不注意による計算ミスが考えられるので、プリント学習の時などを利用して、時間を区切って問題演習を行うなどの工夫をして計算ミスの減少を図りたい。
図形	○数学A、数学Bともに5.2ポイント全国平均を上回っている。特に、数学Aでの「垂線の作図の方法について理解している」では8.9ポイント、数学Bではすべての問題で5.2ポイント高い。 ●全国平均と比べると、数学A、数学Bともに下回っているものはないが、「証明の必要性和意味を理解している」は1.6ポイント高いだけにとどまっている。	・筋道を立てて証明を書くことはできるが、その必要性が理解できていない生徒がいて考えられる。そのために、考える時間を多くとり、じっくりと考えるような証明の学習を授業の中に意図的に取り入れていく必要があると考える。
関数	○数学Aでは6.3ポイント、数学Bでは4.3ポイント全国平均を上回っている。特に、数学Aでの「具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している」、「反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる」では共に12.9ポイント、数学Bでは「事象を数学的に解釈し、問題解決方法を数学的に説明することができる」では6.2ポイント高い。 ●全国平均と比べると、数学Aでは下回っているものはないが、数学Bでの「加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる」では3.1ポイント高いだけにとどまっている。	・「関数を式に表す」や「グラフをかく」だけの学習にならないように、グラフ・式・表などと関連づけた授業展開を心掛ける必要がある。 ・ドリル学習を取り入れ、繰り返し復習をさせていくことで、更なる知識の定着を図っていきたい。
資料の活用	○数学Aでは2.1ポイント、数学Bでは11.8ポイント全国平均を上回っている。特に、数学Aでの「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している」では4.3ポイント、数学Bでの「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる」では16.3ポイント高い。 ●全国平均と比べると、数学Aでの「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」で0.8ポイント低く、数学Bでは下回っているものはない。	・「資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる」では、他の領域のように授業で繰り返し学習することが少ないため、定着が図れていない生徒もいる。課題学習などを通して、理解の定着を図っていきたい。